



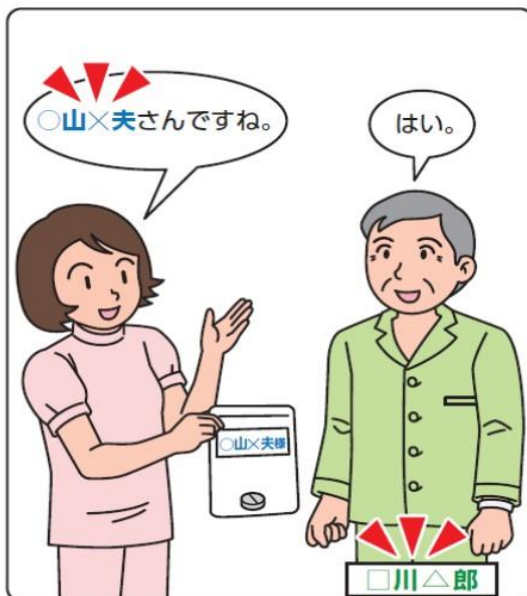
患者確認方法を徹底できていますか？

1999年1月11日 患者誤認による大きな事故が起きました。

「誤認」は、エラーの一形態であり、実際に存在しないものを認識したり、存在するものを正しく認識できないことをいう。すなわち、言語の聞き間違い、文字・表示の読み違い、機器のデータの読み違い、手慣れた業務における勘違い、患者に対する認識違いなどが誤認に当たり、ときに、医療事故の原因となる場合があります。

- ・ 対象者本人にフルネーム・生年月日を名乗ってもらう
- ・ 対象者が名前を言えない場合、入院している時は、リストバンドやベッドネーム、外来受診は、受付表など氏名と照合できるものを用いて確認する（各施設でルールをしっかりと決めておく）
- ・ 緊張や難聴により、間違った内容でも返事をする場合があることを念頭におく

事例1のイメージ



患者確認の一例



◆報告された事例には、この他に姓のみで確認した事例や、名乗れない患者のネームバンドを確認しなかった事例があります。

[出典・参考資料]

- ・ 厚生労働省 患者誤認事故防止方策に関する検討会報告書
- ・ 医療安全情報 No.116 与薬時の患者取り違い 日本医療機能評価機構